



一般社団法人マイインフォームド・コンセント MIC

設立記念シンポジウム & 自由討論 **参加無料**

2016年 7月10日(日)13:00~17:00

「私のインフォームド・コンセント①」

法人設立趣旨

一般社団法人マイインフォームド・コンセント 理事長 佐伯晴子

2016年4月に一般社団法人 マイインフォームド・コンセント (略称 MIC) を設立しました。従来の東京 SP 研究会の活動内容を継続し、さらに、患者だけでなく利用者や一般住民の立場で活動範囲を広げ、よりよい社会づくりを目指します。

東京 SP 研究会を1995年4月に設立して以来21年間、患者の立場と視点から、医療者のコミュニケーション研修や教育のお手伝いを続けてまいりました。共用試験の本格導入から10年経ち、全国の医学部教育でコミュニケーションによる患者さんとの信頼関係づくりが「基本的な学習項目」として位置づけられ、医療面接実習や試験の場では医療者の自己紹介や「共感的態度」は常識となりました。患者役を演じる模擬患者 (Simulated Patient あるいは Standardized Patient 略して SP) との練習や試験は全国で実施されるようになり、学内外の SP と呼ばれる人は急増しました。

ただ、SP とのコミュニケーション教育の機会は増えたものの、患者がみずから考え意思を決めるインフォームド・コンセント (Informed Consent 主語は患者) の理念が浸透したかと言えば、心もとないのが現状です。医療現場では、「IC を取る」と表現されることが多く、取る人が主語であるかのようなとらえ方をされています。私が個人的に参加する臨床倫理の勉強会でのディスカッションや、倫理審査委員として見る文書や、医療福祉介護政策の議論などの端々にも、医療者や専門家が主導 (主語) で、患者や利用者、住民は受け身であって、主体 (主語) としては考えられていないと感ずることがあります。表面的な「患者さんとの良好なコミュニケーション」が増えた分よけいに患者の主体的参加との距離を感じてしまうのかも知れません。しかし、あくまでも患者 (家族) や利用者あるいは住民が、その人にとって十分な情報を得て、そのうえで意思を決めることが重要だと考えます。

また、医療介護福祉の場で患者や家族、利用者がかかえる、自分のことなのに自分で決められないもどかしさや無念は、専門家とのコミュニケーション場面に限らず、制度や仕組みそのもの、関連分野の説明文書、文化や慣習がもたらしていることが少なくありません。専門家がよかれと思って作ったものが、患者、利用者、住民にとってわかりにくく、意味が伝わらないことが多いのです。必要な情報を得て安心して暮らしたい、次世代のために賢く生きたい、そんな思いの市民がふつうに求める「わかりやすさ」を実現し、専門家への信頼を深め、よりよい制度、政策づくりにも貢献したいと考えています。

今回の設立記念行事では、医療や介護の受け手や家族としての体験事例をとりあげ、自由な意見を出し合う機会にします。一般市民、医療福祉介護の関係者、他分野、行政、メディア・・・大規模井戸端会議で、あえて「そもそも論」！から始めようと思います。

第1回の話提供 (高齢家族の外来受診に付き添ったAさんの体験記©MICから)

・・・ある時、担当の先生から次の受診前に検査を受けるよう予約をされました。検査にはCT検査も入っており、当日は受付で案内されるままにCT検査室へ移動しました。何人もの検査待ちの患者さんが黙って座っている不安な空気・・・暫くして検査室の担当者から名前を呼ばれ、CT検査を受けるにあたり説明文書を渡されました。

検査の同意書でしたが、「内容に同意したら記名をして下さい」との事。

「今回のCT検査は造影剤としてヨウドを使用する事でより精度の高い画像を得ることが出来ます。まれにヨウドにアレルギー反応を起こす可能性があり、過去にヨウドでアレルギー反応があった場合は申し出て下さい」との内容文でした。

母が今までヨウドでアレルギーが起きたかどうか分かりませんし、ヨウドでのアレルギー検査もした事が無く、吐きにどうしたらよいのか迷いました。

再び検査室の担当者から「同意書の記入は終わりましたか？」と提出を迫られました。検査の順番が近い事は分かっていましたが、アレルギーがあるか否か分からないのに同意書にサインするのは、どうしても出来ないと思ってしまいました。

「今までヨウドでのアレルギー検査は受けたことが無く、大丈夫ですとは言えないのですが・・・どうしたらよいでしょうか？」と尋ねてみました。

「同意書を出していただかないと検査が受けられません」と言われたので

「もし、ヨウドのアレルギーが起きてしまったらどうなるのでしょうか？」と質問しました。

「その時には病院でそれに対する治療をする体制があるので大丈夫です。」と何とも不安な答えをいただき、余計に迷いが大きくなってしまいました。

緊急で手術を受け、幸いに命が繋がった母を思い、手術で命が助けられたのに、検査のアレルギー反応で大変な状態になってしまったら、手術は何のために受けたのか？

それに同意することは、やはり出来ないと思いました。

進め方の概要

同じ立場の「長屋」別井戸端会議→長屋を越えた「地域」井戸端会議→全体会議と進めます。

井戸端会議では一般の立場からの生の声を最も大事にしたいと思います。

最後に、患者や家族が理解・納得し、意思決定するための、改善の道筋を考えてみます

会場 あうるすぽっと3階会議室B

豊島区東池袋 4-5-2 ライズアリーナビル 3F 「メトロ 有楽町線 東池袋駅」6・7出口直結

お申込み MIC ホームページ <http://myinformedconsent.jp>

懇親会 (要予約 MIC へ 7月9日 24時まで) : 豊島区庁舎 2階 「梅蘭」 会費 4,000円着席・飲み放題

予告 シリーズ井戸端会議と医療介護コミュニケーションセミナー (参加型)

第2回 8月11日 (木祝) 16:00～

第3回 9月22日 (木祝) 16:00～

会場 : あうるすぽっと会議室A